

令和6年度学校評価アンケートの結果について

1 保護者アンケート調査集計結果について

(1) 実施数：49名 回答数：40名 回答率：82% ※一人で複数回答による

(2) 集計結果 (%については小数点第1位を四捨五入)

A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかといえばそう思わない D…そう思わない E…こたえられない

評価項目	質問事項	評価				
		A	B	C	D	E
豊かで確かな言葉の獲得に向けた指導の工夫	学校は、幼児児童生徒の言葉の力を伸ばすための指導を行っている。	16人	20人	2人	0人	2人
		40%	50%	5%	0%	5%
ICTの効果的な活用	学校でICT機器（タブレット、電子黒板等）を活用した学習を進めていることは、幼児児童生徒の学習の理解に役立っている。	18人	15人	1人	2人	4人
		45%	38%	2%	5%	10%
基礎学力の定着・向上	学校は、児童生徒の実態に合わせた基礎学力の定着・向上のための学習指導を行っている。	18人	19人	0人	2人	1人
		45%	48%	0%	5%	2%
キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の実践	学校は、幼児児童生徒の将来の社会生活・職業生活に向けて必要な能力や態度の育成につながる教育活動を実践している。	11人	21人	1人	3人	4人
		28%	53%	1%	8%	10%
自立活動の効果的な実践	学校は、幼児児童生徒の障害等による課題の改善及びコミュニケーション能力の向上を目指した指導を行っている。	14人	16人	5人	3人	2人
		35%	40%	13%	8%	5%
聴覚障害教育のセンターとしての役割の充実	学校は、保護者や関係諸機関、地域と連携しながら聴覚障害の理解・啓発に努めている。	12人	21人	4人	1人	2人
		30%	53%	10%	2%	5%
聴覚障害教育に関する専門性の維持・向上	学校の教職員は、聾学校の教員としての知識と指導力をもち教育活動を展開している。	17人	19人	2人	1人	1人
		43%	48%	5%	2%	2%
保護者との信頼関係の構築と情報共有	学校は、保護者と情報を共有し、家庭と連携して教育活動を展開している。	18人	17人	3人	2人	0人
		45%	43%	8%	5%	0%
危機管理の徹底と安心・安全な教育活動の展開	学校は、防災訓練などの安全教育をしながら、安心安全な環境づくりに努めている。	22人	15人	3人	0人	0人
		55%	38%	8%	0%	0%
いじめ防止対策の徹底	学校は、いじめ防止基本方針に基づき、アンケートや教育相談などを実施し、いじめの未然防止及び早期発見、対応に取り組んでいる。	12人	16人	4人	1人	7人
		30%	40%	10%	2%	18%

自由記述（主な内容）

- ・学校運営について（安心安全な学校生活、教職員の対応など）
- ・聴覚障害に関する理解や自立活動の指導について（発音指導、ろう難聴成人の方の意見聴取、障害特性の理解など）
- ・PTA活動について
- ・職業科の進路指導について

(3) 達成度について

肯定的な回答（「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」）率が8割を超えたものをおおむね目標を達成したと捉えることとし、10項目中8項目で8割を超えました。なお、今回8割を下回った2項目（自立活動の効果的な実践、いじめ防止対策の徹底）を中心に児童生徒及び教職員の結果と照らし合わせて分析、考察をしました。また、自由記載意見においても今後の学校づくりに対して貴重な御意見をいただきました。教職員で結果を共有し、改善できるところから対応を始め、来年度に向けて更なる改善に努めて参ります。

2 今年度の重点目標の対する取組について

(1) 豊かで確かな言葉の獲得に向けた指導の工夫

言葉の意味の正しい理解や場面に応じた言葉の選び方などを丁寧に確認しながら年齢や発達段階に応じた言葉の指導を行いました。分からないことがあったときに自分で対処する力の育成にも指導の重点を置き、幼児児童生徒が主体的に調べたり尋ねたりができるようになってきています。

(2) ICT の効果的な活用

ロイロノートに関する職員研修や AI 型学習ドリルの活用推進等に取り組みながら、ICT 活用の学習効果を検証しました。DX ハイスクール事業による新しい ICT 機器の導入も進んでいます。調べ学習や共同編集など児童生徒が自ら ICT を活用して学習に取り組む場面は確実に増えています。

(3) 基礎学力の定着・向上

幼児児童生徒の実態や指導について教員間で情報交換を行い、授業づくりや課題設定等に活かしました。体験的活動や視覚教材の工夫、反復学習等により基礎的・基本的な学習事項の定着を図っています。学習の必要性や自分の学習課題について意識できる児童生徒が増えてきています。

(4) キャリア教育や自立活動の視点を取り入れた教育活動の実践

各学部においてキャリア発達や自立活動上の課題を踏まえた教育活動の工夫を行いました。出前講座や各種の体験学習など外部とのつながりを生かした学習活動も積極的に行っています。幼児児童生徒が役割を担ったり、意見を出したりして活動の企画運営等を行う機会が増えています。

(5) 聴覚障害教育のセンターとしての役割の充実と専門性の向上

支援部を中心に地域の難聴児及びその関係者への相談支援を行い、通級による指導の充実に向けた検討を進めました。交流及び共同学習や進路指導部の取組等においても聴覚障害への理解啓発に努めています。研修部を中心に様々な形態の研修を実施し、教職員の専門性の向上を図っています。

(6) 防災・安全教育の充実と危機管理体制の再点検

緊急対応訓練のブラッシュアップや職員研修による危機管理マニュアルの改訂を実施しました。家庭との連携を大切に考え、アンケートや便りの発行も行っています。事前事後指導の充実や校内掲示物の整備等により、緊急時の適切な初期対応について幼児児童生徒の理解が深まっています。

3 今後の努力点について

(1) 豊かなコミュニケーションと言葉の意味の丁寧な確認等により言語力のさらなる向上を目指します。また、分からないことを調べたり自分から情報を得たりする方法が身に付くよう指導します。

(2) DX ハイスクール事業を有効に活用し、本校の実情に合った ICT の活用をさらに推進して学力や情報リテラシーの向上を図ります。また、授業参観や便りなどで活用の状況をお知らせします。

(3) 基礎学力の定着・向上のために個別の指導計画に基づいた適切な指導・支援を継続します。また、学び方の習得や学習習慣の形成に向けた取組を工夫し、主体的な学びを支援します。

(4) 自立活動においては、保護者や本人のニーズを確認し、指導内容の検討や工夫を行うことでさらなる指導の充実を図ります。キャリア教育においては、社会的自立に向けて必要な力を、学部ごとの発達段階に応じて設定し、社会とのつながりを踏まえた教育活動を通して育成していきます。

(5) 教職員研修の充実等により教職員の専門性の向上に努め、センター的役割の充実を図ります。関係機関との連携を深め、地域における聴覚障害者への理解啓発に努めます。

(6) 安心安全な学校づくりのため、より実践的な緊急時の対応訓練を実施し、自分の身を自分で守る力を育成します。いじめ防止対策については、いじめアンケートの内容を含む未然防止の取組や適切な初期対応についての周知に努め、学校と保護者との連携をさらに図ります。